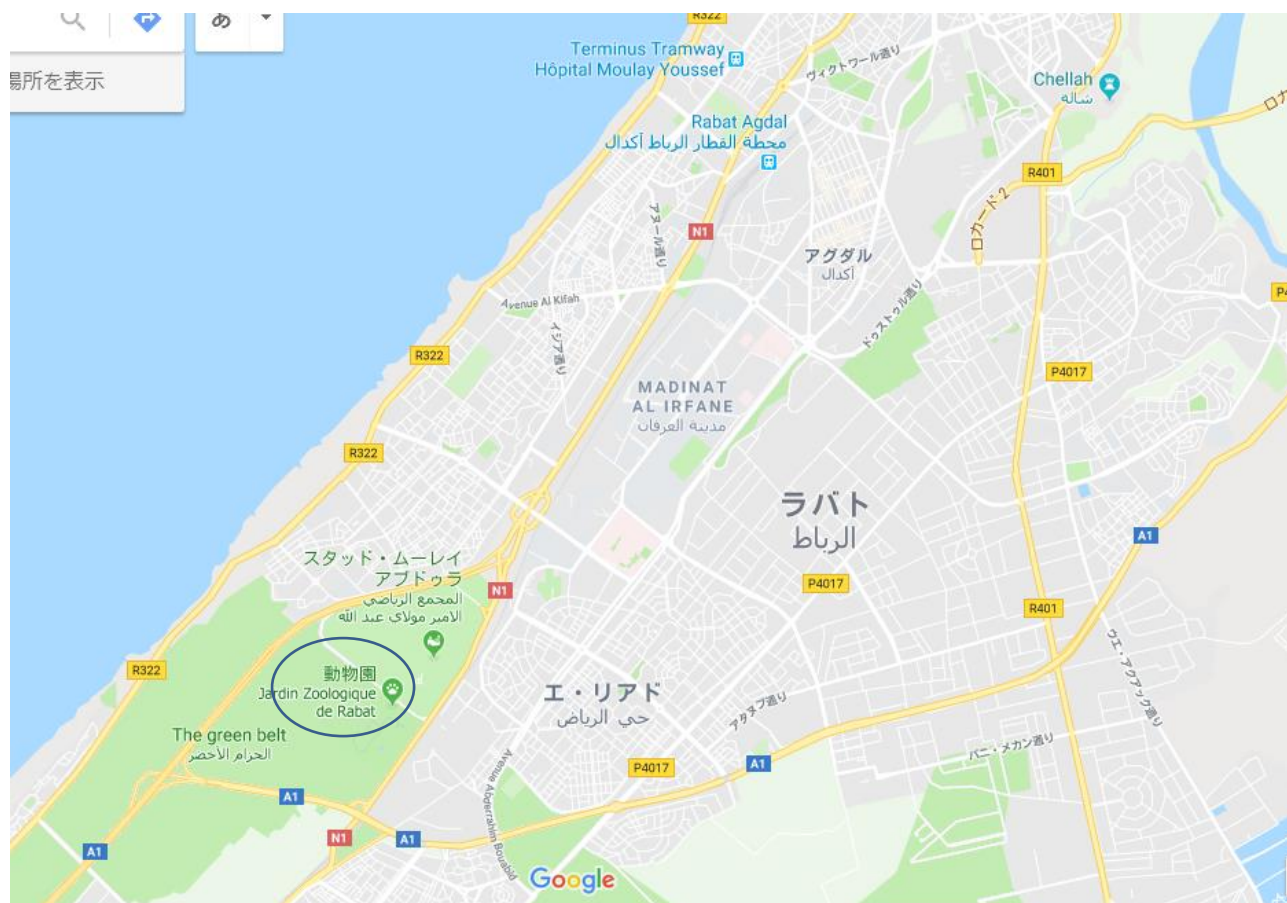


ラバト動物園 報告

2018年10月にラバト動物園に行った。この動物園はもともと鉄道線路を超えたハイリアド側にあったが、ラバトの郊外に高層アパート群を作る為、海よりの森林保護地区に移された。より動物が自然な形で見られる動物園となっている。隣は、別の街テマラで、ラバトの外れにあって、交通手段は、タクシー。バス通りまでは結構歩く。動物園の前には、運動場かと思える駐車場がある。

広大な敷地に、アトラス山脈、砂漠、サバンナ、森林、沼地の地形を作り、それぞれの地形に住む動物たちを見せている。何とんでもこの動物園の見せ場は、バーバリーライオン。モロッコサッカーチームの愛称にもなっている”アトラスのライオン“。動物園の入り口に大きな石像がある。



ラバト動物園入り口にある勇ましいライオン像



実物のライオンは、年老いて毛並みが白い

バーバリーライオンは、もともと北アフリカの森林地帯にいたが、今は世界に 32 匹いるが、この動物園で半数が、飼育されている。古代ローマの闘技場で、剣闘士が戦うのはこのバーバリーライオンだった。全長 4m はあるというライオンで、絶滅したと思われていたが、モロッコのモハメッド 5 世の私的動物園で飼育されていたが、今はここで繁殖もされている。アフリカのサッカーチームでライオンの愛称で呼ばれているのが、モロッコのほかに、カメルーンの“不屈のライオン”セネガルの“テランガのライオン”と 3 匹いる。テランガとは、セネガルの別称、現地語ウォロフ語で“もてなし”を意味する。



繁殖が試みられているバーバリーライオン



マダガスカルのワオキツネザルの群れ



シロサイが向き合って争う雰囲気



首を撫でてもらい気持ちがよさそうなキリン

この動物園は、動物が中心で人が見るところが限られていて、動物たちは見る人に囲まれていないので、安心して様子。キリンを見る場所は、観察台が作られておりキリン目線で観察できる。

バファローは、観察場所から見えない山の後ろに集まっており、姿を現さなかった。チンパンジーの区域は、人が下の窓から見上げる形になっており、時間をかけて待っていないとなかなか近寄ってくれない。監視員が音を出してチンパンジーが近づくように注意を喚起していた。コクチョウ別名クロ白鳥（ブラックスワン）が、大きな池におり、人が近づくとエサをねだる様に寄って来た。ここは、なかなかおもしろい動物園となっている。

